2023年度　第１回自然科学系アーカイブズ研究会

2023.10.5　国立極地研究所

大野市史アーカイブスから学ぶこと

越前大野藩と明倫館 そして明倫学舎

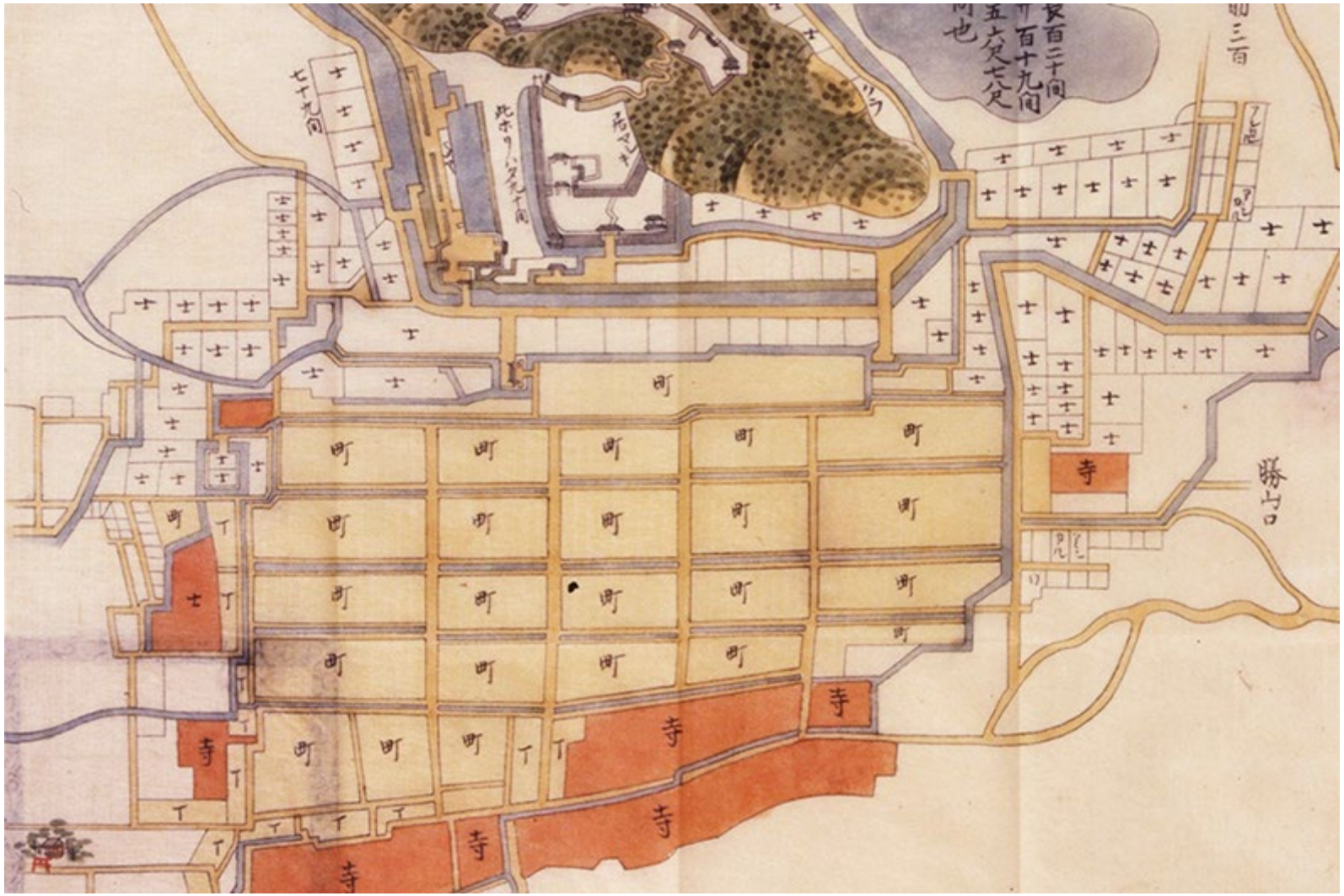
松田慎三郎

（公財）輔仁会明倫学舎 副理事長

元原研、東工大特任教授など

福井県地図

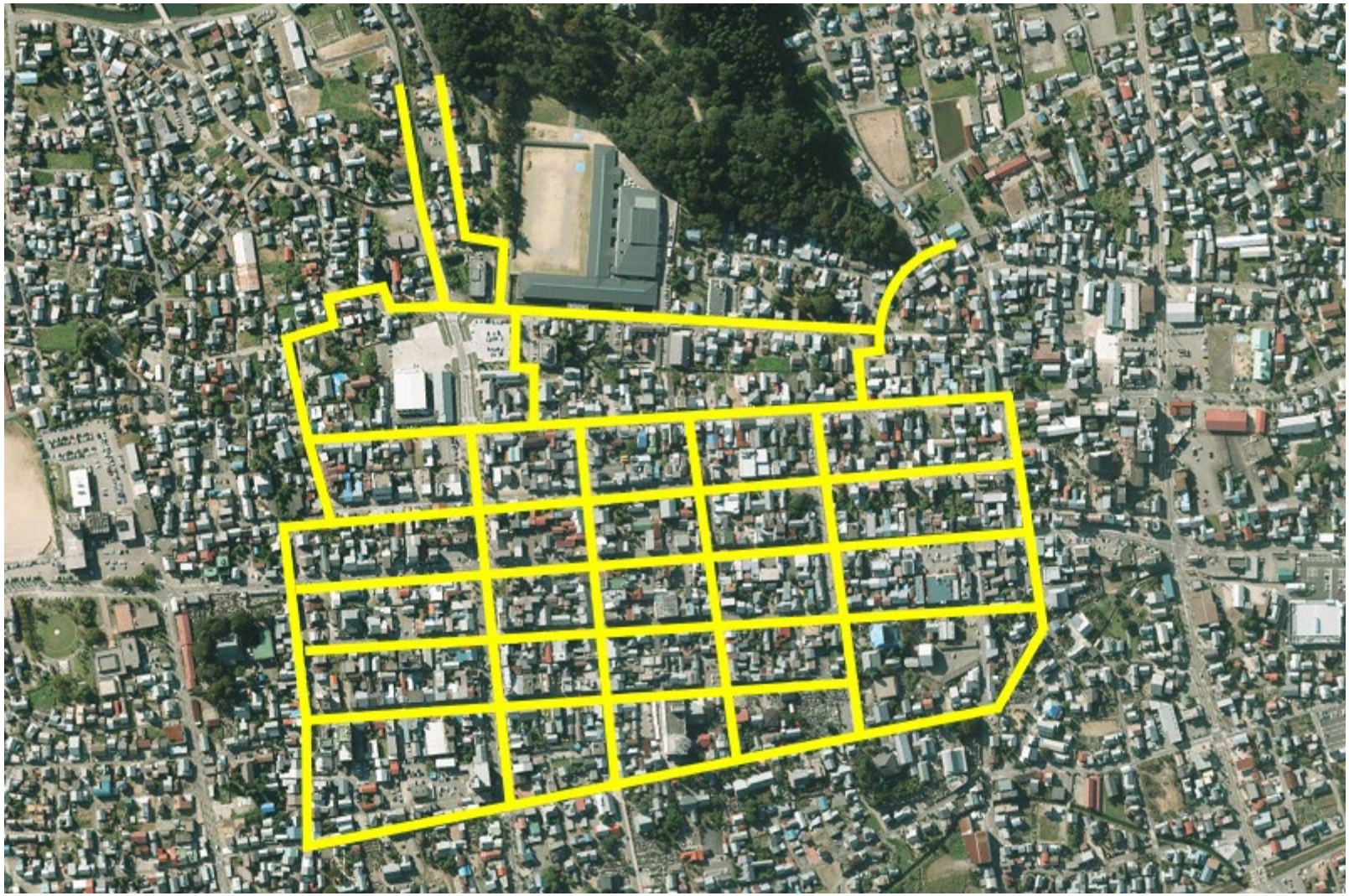
越前大野城　　大野盆地の亀山に建つ　　雲の下には城下町



越前大野の城下町　1576年金森長近が城主となり、織田信長の安土城と同じ年に築城開始。城は亀山（高さ約50m）の頂上に建てられた平山城。

同時に広さ約 500mX700m の城下町の建設開始。

金森長近は完成直後の1586年移封により高山へ



当時の街並みは今も残っている。

1963年豪雪（昭和38年）
信用時計

昭和38年（1963年）ころ、

福井県立大野高校の中庭に廊下で繋がれた図書室（木造平屋）があり、

その閲覧室に隣接して開かずの書庫があった。

そこで目にしたのが170年ほど前、江戸末期の越前大野藩の明倫館（1844年開設）で使われていた図書類。

手にした何冊かの本、その中に手書きの辞書も。

勉学に燃えた若者たちの覇気に圧倒される。

明倫館所蔵のオランダ語辞書類と翻訳出版物　（明倫館蔵書の一部）

改革には志を持ったリーダーの存在が不可欠

江戸時代当初は越前65万石（松平秀康）の一部

土井家　家康の側近の**土井利勝の4男土井利房が**

1682年、初代大野藩主となる。

1818年　利器（六代）が病死。**利忠（8歳）が七代藩主となる。**

宗家の常陸古河藩主土井利位が後見役、その家老であった鷹見忠常が天文・地理、蘭学、海外情勢を教授。

広い視野を持つようにエリート教育を受けていた。

1829年　土井利忠 19歳で大野に着任。

そのとき大野藩の財政は大赤字

今日の話は利忠の藩政改革

1829年　土井利忠 藩主となる。　19歳

翌年　藩政の改革の決意

1836年　**倹約令 → 効果なし**　(1833-1837年天保の飢饉)

1842年（天保13年）

藩の借金　96200両　それまでの洪水、大火、天保の飢饉対策等で出費

藩の収入　16000石　（11600両～16000両相当）

利息だけで9000両/年

無利子とし、収入の2割を借金返済に充てたとしても30年かかる。

VS.　日本政府の借金　2022年度　1026.5兆円

年間予算は100兆円　（うち1/3くらいは国債発行によるもので返済費用よりも大。　→　赤字が増えていく状態。

「更始の令」　1842年

藩士を一堂に集め、藩主自ら生活を切る詰め、借金を返し、藩財政の立て直しを図る決意表明

武士の手当　　3分の2に減給

武士だけでなく、商人、農民にも倹約をすすめ、贅沢な生活を戒めた。

因習に固執する家老たちの更迭

有能な若い人材の登用　中村重助、内山兄弟らの登用

(1840年～1842年）

直書

「君臣上下」は一体である。

財政難から政務が欠け、不正も生じ、正直者が埋もれている。
政治向や私自身の身の処し方に至るまで、気付いたことは何でも申し出てほしい。お前たち家臣の「真忠の精力」に頼る以外大野藩に未来はないのだ、一同の者、呉々も頼んだぞ。

人材の育成

1843年　　明倫館を開設

朱子学、国学、蘭学、医学、兵学、剣術

武士だけでなく志あるものを区別なく受け入れ。

蘭学、洋学

藩士を江戸、京都・大阪などに送り、蘭学、医学や砲術を学ばせた。　**準備期間**

1856年　洋学館を開設

蘭学世話役　吉田拙蔵

緒方洪庵の適塾の塾頭、伊藤慎蔵を教授に招く。

1857年　学資法　藩収入の4％を学資に充て子弟に学ばせる機会を増やす。

1858年　一般家庭の子弟にも入学を広く呼びかけ

「有益の書類は価を論ぜず購入せよ」　所蔵書籍は　和漢だけで3000冊

とくに、蘭学・洋学は諸藩に知れ渡り、

福井、加賀、江戸、大阪、丹後、摂津、佐賀、宇和島、中津、美濃、讃岐、安芸などの各藩からの留学生30名～50名＋藩内から200名

種痘の接種

1845年　藩は洋医学の採用を決める。
藩医を大坂の適塾や江戸の杉田成卿に学ばせる。

1849年　種痘の研究を命ず。
1850年　福井藩から分苗してもらって藩の小児に接種
→　結果良好
1851年　城下に施術所を開設して種痘を開始。

1854年　領内の幼児に強制接種を命ず。
1857年　済生館（病院）をつくり、種々の病気の治療に

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

良いことは即決
1949年　長崎に痘苗（とうびょう）が入る。
50年　大野藩入手、
51年　施術所を設けて領民に接種
（vs. 江戸お玉が池種痘所開設1858年）

官営チェーン・ストア　大野屋

藩財政改革には収入増が不可欠

特産品の生産を奨励し、大坂や江戸の消費地で販売
大野藩： 煙草、生糸、麻、漆、面谷（おもだに）鉱山の銅、金銀

安政2年（1855年）　大坂に藩直営の「大野屋」開設。

安政3年　函館、越前織田村に「大野屋」を開設。
扱う商品：昆布、干物、金融　などに広げ、総合商社の性格

全国に次々に大野屋を開設

大野屋の全国展開。左上は越前の拡大図で9店舗、越前以外で9店舗、合計で18店舗。　その利益は藩財政の改善に大いに役立った。明治になってからも発展し、全国で40店舗近くになった。

蝦夷地開拓

1855年　幕府の蝦夷地開拓希望の公募

　内山良休・隆佐兄弟、明倫館の吉田拙蔵、伊藤慎蔵らと**立案　→　リーダー利忠の了承　→　幕府に調査の申請**　　**若手人材が立案　殿が承認**

1856年（安政2年）

　口蝦夷（北海道）の探検　→　幕府に開拓の申請　→　許可されず（背景に 大商人の既得権）　**→　若手藩士早川弥五左衛門らは憤慨、北蝦夷（樺太）の開拓へ**　　**拒否にめげずにもっと大きいことを考える。**

1857年

　早川らホロコタンまで漁場調査　→　幕府 北蝦夷の開拓を許可。

→　利忠　早川以下数十名の家臣を派遣　ウショロで越年　**即、実行**

　問題点:　船が無い。洋式帆船が必要　→　利忠建造を許可（建造費 7230 両）　　**必要なものは自らつくる**

1858年 7月

大野丸進水　吉田拙蔵 幕府の海軍所で操縦術を学び、船長となる。

兵庫、下関を回り9月敦賀に到着。 **必要な技術は自ら修得**

1859年　北蝦夷開拓団30名　敦賀から函館を経由して4月ウショロ着

屯田開始。　そして実行

幕府への北蝦夷開拓資金援助の申請
→　受け入れられず。

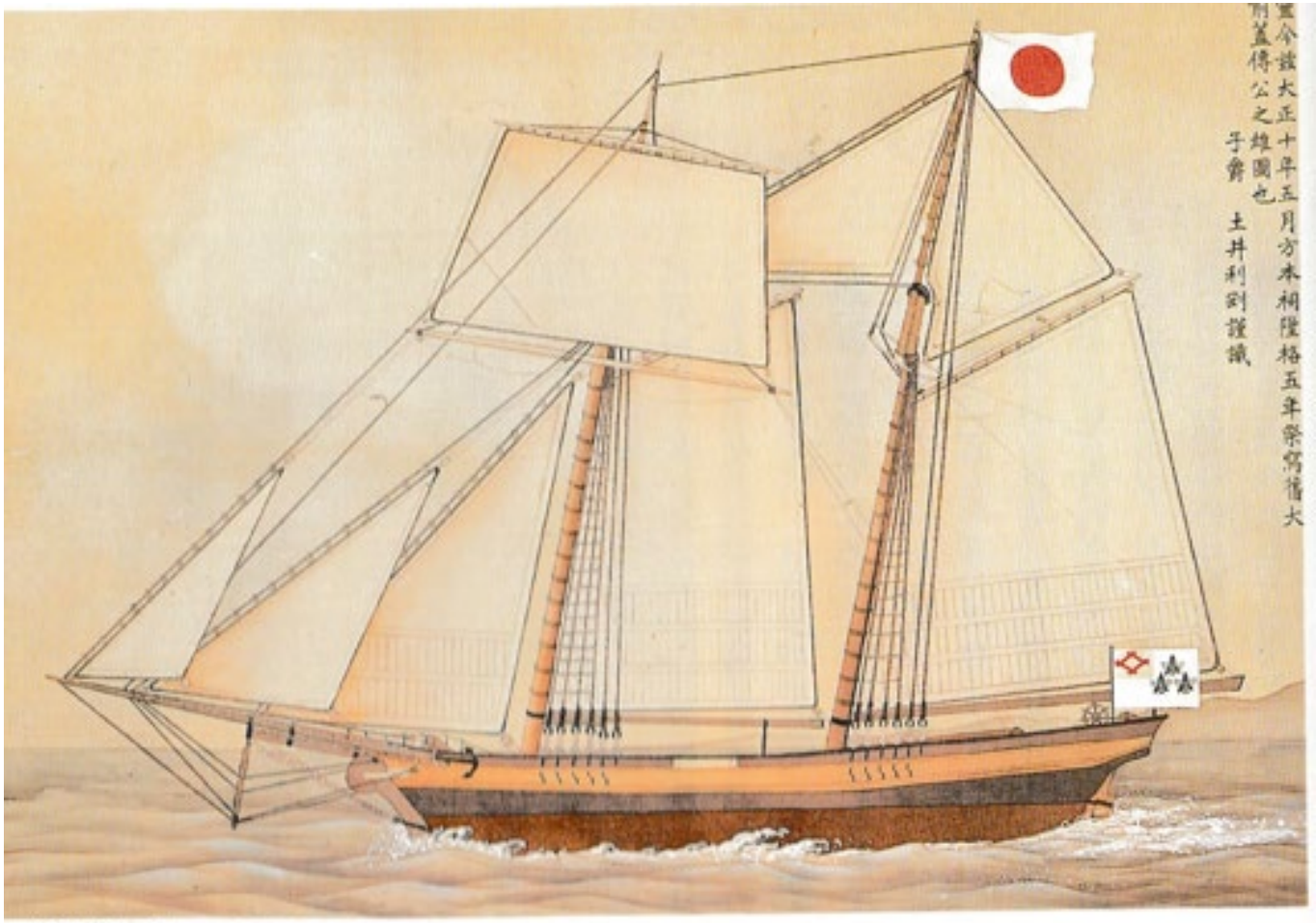
代わりに幕府に対する御用免除、ウショロ一帯を大野藩の準領地と認む。

しかし、国境が決められておらず、ロシア人の南下・移住の増加が止まらず。

1861年　幕府に開拓資金の借り入れを申請　1/5 のみ認可

（1862年～64年　利忠　病気により隠退、内山隆佐病死）

1864年　大野丸根室沖で暴風のため沈没。
1867年　大政奉還



大野丸の図　柳廼社蔵

大野丸の建造　1853年着工、2年後完成。長さ32.7m、幅7.2m、深さ5.4m
図は土井利忠公を偲んで旧家臣らが建てた柳廼社（やなぎのやしろ）所蔵。

おわりに

改革の原動力は人、そのために人材の育成
　明倫館、洋学館

幕府に出した大野藩家老内山隆佐の書
「私たちは主人（利忠公）より強く申し付けられ漢学にも蘭学にも精を出し学んできましたが、それは学ぶだけでなく実際に生かすよう心掛けて参りました」

学んだことをもとに、全国に先駆けて
　種痘を実施、病院を建て
　子供や困窮者に目を向けた、健康・福祉・教育政策の先がけ。

ペリーが来航して英語の必要性が出てくると、英吉利文典（辞書）を発行。

財政赤字の解消
　倹約とともに収益を図る知恵を追求
　大野屋チエーンの利益
　　借金返済、教育、健康・福祉の充実、大野丸の活用
　幕末までに藩の借金返済。

長期的視野で蝦夷地開拓
　大野丸の建造と活用　　大野屋の商品の輸送、蝦夷地開拓の人員、物資の輸送

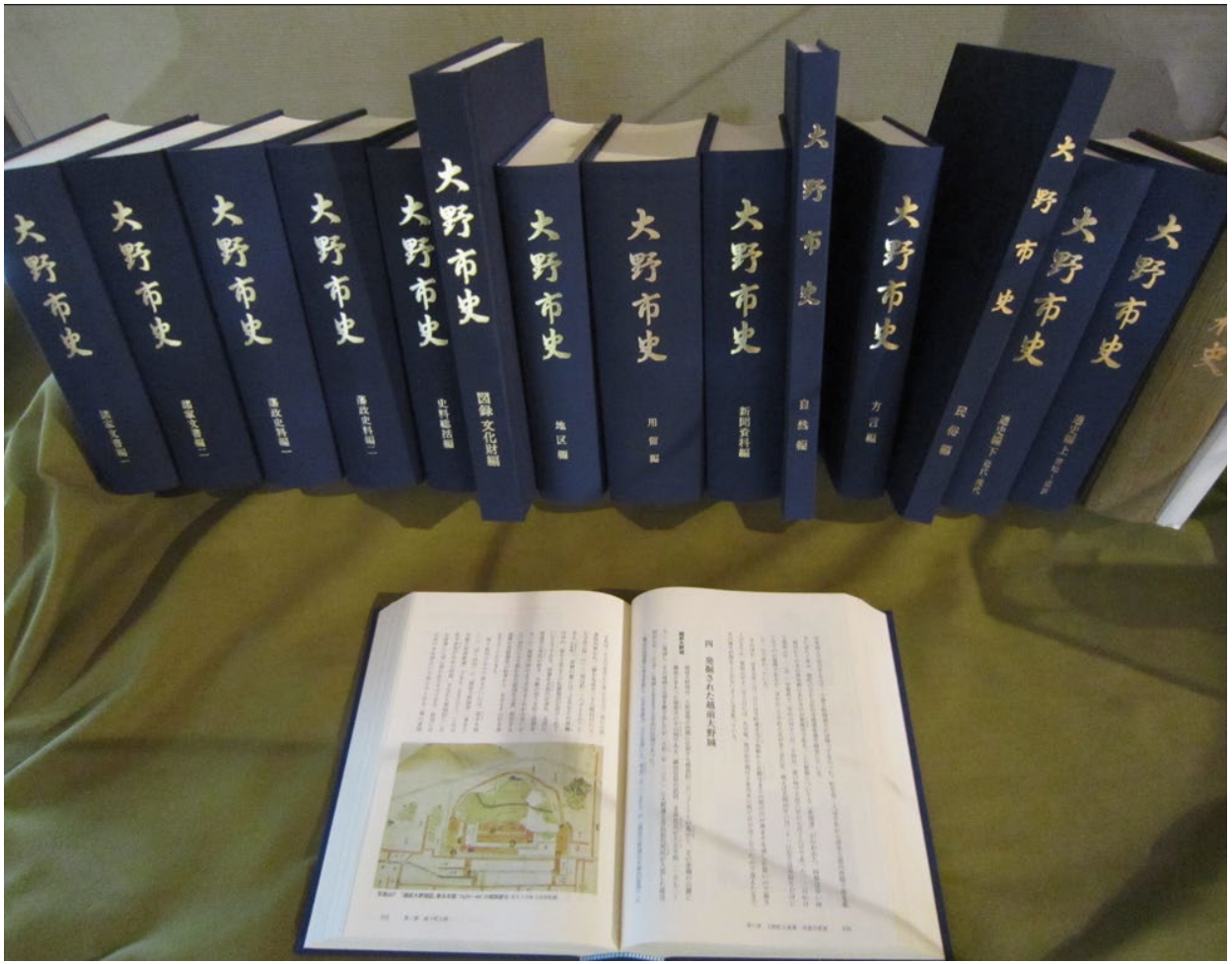
これらの原点はリーダーが藩士を一同に集めて「更始の令」での決意表明し、自らも実行したこと。

海のない奥越の小藩が船を建造し、幕府より先に樺太の開拓に着手した気概。

大野高校の校歌（詩人の三好達治作詞）の1節に

**「ふる国の古き郡の、名もゆかし　二帆前　大野丸　波のりゆきし・・・
　後の子も　遅れじものを」**

とある。



ここに引用した史実は、主に大野市史（1976年市史編纂事業として開始され、42年かけて2019年完成）全15巻の通史編上（原始～近世　1050頁）に依っています。地域の古い353家に保存されてきた古文書資料42000点を編纂委員会や、地域の人達の「古文書を読む会」などによる掘り起こし作業を通して解読、整理したものが基礎となっている。市民を巻き込んだ超長期的なアーカイブズ作業であった。

明治維新の後、東京での学生支援のため、寄宿舎として旧越前福井藩の輔仁会学舎（明治28年　小石川）が、また、旧越前大野藩の明倫学舎（昭和3年　吉祥寺）があったが、東京大空襲で輔仁会小石川学舎が焼失したのを機に　昭和20年両者が統合して輔仁会・明倫学舎（東京都吉祥寺）となって現在に至る。

何故、この話をしたいと思ったか

世界における日本の地位はどんどん低下している。産業技術面でも科学論文数や質においても低下が止まらない。

リーダーや大きな志を持った人を見付けにくくなっている。　そういう人たちが出にくい世相・社会を作ってきていないか？

激動の時代でないと人材は現れないのか？

いつの間にこうなってしまったか？

何かを根本的に変えなければ回復不可能な事態になることを危惧し、参考になればと思い、お時間をいただきました。

ご清聴ありがとうございました。

和暦	西暦		大野藩	日本国内
文政11年	1828年			シーボルト事件
文政12年	1829年		土井利忠　藩主となる。 19歳	
天保7年	1836年		倹約令　あまり効果なし	
	1338年			
天保13年	1842年		更始の令	
天保14年	1843年		学問所開設、翌年から明倫館となる	
	1845年		洋医学の採用　上田竜湾、林雲渓らを適塾に派遣	
嘉永2年	1849年		利忠　長男を天然痘で亡くす	痘苗が長崎に届く。(6月26日) 福井には11月25日着
嘉永3年	1850年		福井藩の笠原良策から分苗してもらい、連れ帰った子供の結果良好→3人に接種	
嘉永4年	1851年		5月施術所を開設して種痘を開始	
	1853年		佐久間象山　勝麟太郎　江戸藩邸でレク	ロシア　樺太領有を主張
安政元年	1854年		幼児に強制接種の令	
	1854年			日米和親条約
安政2年	1855年		大坂大野屋開店。	日露友好条約。
			明倫館で有志が集まり蝦夷地開拓の計画	幕府、北海道、樺太の開拓を諸藩から募集
安政3年	1856年		函館大野屋開店	
			洋学館開設	
			伊藤慎蔵を招く	
			内山隆佐、早川弥五左衛門ら北海道の現地調査。開拓を申請したが幕府は認めず。→樺太の調査	
			大野丸建造	
安政4年	1857年		学資法を定め、藩収入の4%を学資に	
			幕府樺太の開拓許可。	
			英吉利文典刊行	
			済生病院開設　土田竜湾、高井玄俊を病院総督に。貧困の者には診療、薬代　など免除。	
安政5年	1858年		大野丸進水	井伊直弼大老に就任。江戸でお玉が池種痘所開設
安政6年	1859年		大野丸樺太開拓団を乗せて敦賀出航	橋本佐内　頼三樹三郎　死罪
万延元年	1860年			桜田門外の変
文久2年	1862年		利忠引退　病気がち	
元治元年	1864年		内山隆佐病死	
			大野丸沈没	
慶応3年	1867年		大政奉還	
慶応4年	1868年		明治維新	
明治4年	1871年		廃藩置県	